学校感染症について

学校では学校保健安全法により、児童生徒が感染症と医師に診断された場合、本人の休養と他の人への感染、流行を防ぐために「出席停止」（欠席扱いとしない）の措置をとります。感染症と診断された場合は、必ず学校へ申し出てください。＜診断書の必要はありません。＞

▼休む期間は、下の表を参考に医師の指示に従ってください。

	感染症の種類	出席停止期間の基準
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、鳥インフルエンザ、重症急性呼吸器症候群（SARS）、新型インフルエンザ	治癒するまで
第2種	インフルエンザ ※鳥インフルエンザを除く	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消える、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	熱が下がって3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風疹（3日はしか）	発疹が消えるまで
	水痘（水疱瘡）	全ての発疹がかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主な症状がなくなり2日を経過するまで
	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、流行性嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）等、その他の感染症	医師が感染のおそれがないと認めるまで

★欠席連絡の際のお願い★

学校では、毎日の欠席状況について、国立感染症研究所の学校サーベイランスを通して県に報告しております。そのため、体調不良による欠席連絡の際は、**具体的な症状**をお知らせください。

※「体調不良」や「かぜ」という報告ができませんので、ご理解とご協力をお願いします。